

全東大の最も先進的、革命的学友は、八大スローガン

の下に、日米主権を克服し、自由帝国主義を打倒

全学共闘会設立を要求し、東大斗争を再編強化

ることに社学同は、話し合い協議の産物として、足踏

りカード封鎖斗争が不可避であることは幾度と感

述べてきた。そして東大斗争が学園斗争に終

て、日本階級斗争に対して理のべきスローガンを以

下に示された八大スローガンであり、唯一のスト

い。この中で日論はFISPAの強化、自主

的強化、安保体制強化とともに、鉄鋼巨

額、電子自動車など近年急速に対米輸出を仰

ぎに商品に対する資本強化を要請され

るであろう。

内容の文二は、フランスを材料より招来さ

せる国際通貨危機である。この通貨危機は日

本の国際通貨へ基軸通貨の弱体化を要請し

つつ、その主体は通貨シート切上げ懸念にさ

らされてはいる強い懸念アルクと、逆に切下げ

日本共闘会
革命の結晶

- 一、NATO、安保粉砕がエトノ公算勝利!
- 二、日帝の侵略反革命は70年安保粉砕!
- 三、日帝の中核官僚養成機関、日大崩壊本連、東京帝大
又大学を打倒し人民大学に改編せよ!
- 四、全学園斗争を70年安保斗争への飛躍の場とせよ!
- 五、ソ連主義原則の下、鉄の全人民的団結、大衆的戦闘組織と
武装行動隊を創出強化せよ!
- 六、全学共闘会設立を諸学共闘会の中核としてエト型全学評として再
編し、全学連、地区反戦の反帝統一戦線の強化を克ち取れ!
- 七、一切の改良主義、全学連又組合主義、日和見主義粉砕!
- 八、全東大人は全学共闘会設立に結集し、
七項目要求を八大スローガンの下斗に扱け!

切ろつと日本アムニシティとを懸念を表明している。日本アムニシティも本陣面を面紙し厚層同様の位置にあり、このことは、世界第四又列強に於ける日独の対抗とNATO守衛の発動として結果をせんとしているのである。

それ故、そのした動向に規定されず日帝の方向と日帝のもつ東大斗争の方針を次に確認せねばならぬ。

昨日の自民党総裁選に於ける佐藤首相の此大政の発表は三木の協調路線を大衆追随と批判し、従軍への大衆斗争との全面対決、自主防衛の強化、防衛力と関連しての押縄返還問題その他、大衆斗争の解決をとりあげている。

さらに雅尾又相は、二十日「場合によっては、大学の二つ三つ潰れても仕方がない。本当に日本のために争があるとなれば、断々の一字を振る以外にほりしとの采巻を示している。日本のためにしという中に示される東大の位置とは、とりもなおさず、市場再分割戦における日帝金融支配体制強化に見たつた東京帝国又大学の再編のことであり、それは、資本の脆弱性の故の産産協同路線と政府中核官僚養成と排外主義イデオロギの産出を大学がいかに充てるかである。東大一万の学生と七千の職員、附属病院、研究所此のどれ一つとして日帝の動向を左右しないものは無い、東大斗争はすでに能力として排外主義の拠点かさも無くばつばすかの二看一の問題として迫られており、そのした認識の下に「現実にはきわめて慎重な態度をとり、大学当局を奨励し、打開の道を見出すよう努わしている雅尾」のである。

七項目をめぐり対立はすでに起こりまできている。七項目中の一項目一項目の諸句が問題なだけではなくその内東自解意欲性が決定的に対立しているのである。七項目貫徹をめぐり争いとして全学バリケード封鎖は今や不可避の問題と存しているのである。それ故問題は、全学バリケード封鎖という事から相上新執行部。日米の対立。新たな展望を幾々は明かにしなければならぬ。

予備折衝は加上新執行部の「話し合い路線」の確立を大衆的に明らかにした。

加上新執行部の唯一の方針は810の案を自己批判や如分の自給撤回にあるのではなく、「話し合い」ということへの対求められるのである。それは、基本的に、国家権力と東大の対決の中で、最後の四六自主規制路線執行部として、大学の自治非教授会の自治。を研ろつと必死になつていく執行部であり、政府アムニシティの「東大関係」のどのつとと民衆の体制内改良方針に於て、東大幻想共同

体制に吸収されてゆく大衆を、正もかく言ひあつて、という路線によって解決しようとするも、しかし、新執行部がいかにか粉飾しようとも大衆の国主又的再編からいられる方針は提議すべくも存く予備折衝はますます大衆に新執行部のゴマコ割と大学封鎖の必然性を提議せずにはおこなつたのである。今東大入につまつけられたことは、自らの自衛利権と大学社会の共同利害、そして階級利害と市民社会の共同利害の限りない分裂に於て、その統一の志向性を当局が認めない改政への橋の民主又形或民主又から大学共同幻想、国家共同幻想へ吸引しつとめるのに対して、この統一への志向の外化を初権力斗争の戦略と、その基礎としての人民大学の提議と、実践の今におけるその体现としてのこの三原則に基く團結形態の獲得である。

かくして我々は、七項目を包摂し、全東大諸階級諸階級を統括するハラスローガンを提出したのである。この戦略に導かれてこそ東大斗争を70年代階級斗争への昇躍の場として形成し、日大斗争と連帯し、日大斗争を統合することができるのである。

戦略をもたぬ全ての党派、潮流は動揺し、混乱し、展望を失っている。

民衆民主革命から導かれる東大斗争の体制内改良主義又日帝国主又権力の総認が大衆から開放され、内閣の動揺を余儀なくしている日共はもとより、連合、青解、フロントに於ては、大衆の急変を分解と右派の抬頭におじろま、22日全学集会、全学バリケード封鎖の位置と展望を明確にしえており、唯一社会学同の才が東大斗争の方針を提議し、その下に断固とした民衆との党派斗争から全学バリケード封鎖貫徹を促そうとしているのである。

全東大人はハラスローガンを基本的に認識し、大衆的斗争相転と、武装行列隊を創出し、全人民の武装の一環としての人民大学を担うコミューンラックと全大衆人民の武装へ向つての展望を切り拓いてゆかねばならぬ。

東大學生はもとより七千の職員、研究者すべてを闘いの渦に巻きこめ、全学連一地区反戦との反帝統一戦線を獲得せよ！

東大日大斗争勝利

時計台前総決起集会

22日2時

に結集

せよ